



なるぱーく15th記念 懐かしの写真特集



開店当時(2011年)正面出入口

なるぱーくは地域の皆様が気軽にゆったり買い物ができる
花や緑を一緒に育む「なるみ公園」を目指しています。



開店当時(2011年)に
タイムスリッパだびよん!



なるぱーくでの エピソード



「なるぱーく」は地域のみなさまに育まれて「成」長し、共に「鳴り」響く施設になりたい。
また、他のどこにもないオリジ「ナル」の地域に愛される公園になりたい。
という気持ちを込め名づけてきました。

「猫ちゃんが繋いだご縁」
2022年、照りつける真夏のある日。「屋上駐車場に猫がいて危ないかもよ」といって、そんな一本の猫が繋がりが始まりました。すぐに警備が確認ができましたが、猫は見えませんでした。かきこえる声も聞こえず、猫がどこにいても見つかりませんでした。何かがおかしい、猫がどこかへ逃げたのか、と心配が膨らんでいきました。数日経っても猫は見えませんでした。そう考えた、以前からお付き合いのある「なるみ公園」のスタッフに連絡しました。その日のうちに駆けつけてくださり、さすがはプロ。あっという間に子猫を無事保護してくださいました。どうして屋上駐車場に迷い込んだのかは分かりませんが、これだけ、みどり区地域への愛が伝わりました。安全な場所へ。愛情いっぱい育てて、健康な子猫を見つかりました。今「はなちゃん」という名前、幸せに暮らしているそうです。この出来事がきっかけとなり、みどり区地域への愛が伝わりました。定期開催するご縁へとつながりました。地域ねこちゃんたちが、譲渡会を通して新たな家族との出会いを生み出す場として、つくる取り組みが、ここから広がっています。



「祈りとともに迎えた開店の日。」
なるぱーくがオープンしたその日は、忘れられない時代のただ中でありました。東日本大震災の直後———その中が深い悲しみと不安に包まれていた頃です。それでも、地域の灯りを絶やさないようにと、なるぱーくは静かに、そして力強く歩みを始めました。オープニングセレモニーには、地元保育園の子どもたちが参列。小さな手を胸の前でそっと合わせ、会場にいた全員で黙とうを捧げました。にぎやかなはずの開業の日。けれどその時間は、「日常の尊さ」と「命の大切さ」を胸に刻む、静かであたたかな瞬間となりました。あの日、式典に参加していた保育園の子どもたちは、15年の時を経て、いま成人を迎えています。あのとき小さな手を合わせていた子どもたちが、いまはそれぞれの道を歩む大人に。なるぱーくの歩みとともに、地域の時間も確かに流れてきました。悲しみの中で始まった一歩はやがて人の成長と、地域のつながりというかたちで実を結び、今日もここに、あたりまえの日常を支え続けています。

～お客様からの声～



もう、なるぱーくになって15年も経つと聞き、驚きました。日々買い物に訪れ、暮らしに自然と溶け込み、そこにあった当り前の存在となっており、そんなに特別な存在ではないけれど、そんな瞬間が訪れるたびに気づかぬほどです。振り返ればさまざまな思い出がありますが、以前あった施設に比べて楽しいイベントが増え、施設全体がより明るくなったと感じています。学区にとまらず、市民病院や地域のさまざまな団体と連携し、会社や組織の垣根を越えて多くの人が集まる場になっていることを、とても嬉しく思います。これからも、地域の実情が集まる素敵な場所であり続けてほしいです。———S様

なるぱーくはいつも子供たちが素敵な体験をさせてくれる場所です。子育て歴14年、いつも家族での外出先の選択に悩むことがあります。イベントを通して子供にたくさん経験をさせることができました。こんなショッピンセンターほかにもいろいろあります。ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。———G様

週末子供とよくイベントに参加させていただいています。印象に残っているのはお盆の「ニジマスつみ取り大会」です。子供たちが自分で捕まえたニジマスを食べ、食べる体験がこんな都会の真ん中でできるなんて本当にありがたいです。子供たちが自分たちで捕まえたニジマスを食べる姿は見ていて嬉しかったです。体験もできると本当にいいと思います。なるぱーくは地域にとってもなくてはならない存在だと思っています。———M様

なるぱーくは毎回家族で子供たちと一緒に大人の私も歩みます。「紙ひこう機はし大会」では娘が2位になりました！家族で楽しめたかったです！結婚してから約10年、なるぱーくの常連ファミリーです。これからもたくさんなるぱーくに行きます！———O様



たくさんの素敵なエピソードとお写真をお寄せいただき、誠にありがとうございました。